

報告事項シ

青谷上寺地遺跡出土弥生人骨のDNA分析について

青谷上寺地遺跡出土弥生人骨のDNA分析について、別紙のとおり報告します。

平成30年8月17日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

青谷上寺地遺跡出土弥生人骨のDNA分析について

平成30年8月17日

文化財課

- ・県（埋蔵文化財センター）と共同でDNA研究をしている国機関による研究が、今回文部科学省の助成事業採択を受け、今後の取組について8月1日に国立遺伝学研究所のホームページで公開した。
 <ホームページ：「ヤポネシア人の総合的研究」(http://yaponesian.org/work_report.htm) >
- ・青谷上寺地遺跡の調査研究がより一層進展することが期待されるとともに、青谷上寺地遺跡の情報発信が飛躍的に拡大することが期待される。

1 共同研究の概要

現在、埋蔵文化財センターでは、日本列島人の成立過程、進化、先史時代の親族構造等の解明を目指す国立歴史民俗博物館・国立科学博物館等が実施している研究プロジェクト「日本列島人の進化に関する考古学的・遺伝学的・言語学的研究」において、青谷上寺地遺跡出土弥生人骨の約40点の頭骨、上・下顎骨から試料を提供し、DNA分析等に関する共同研究を行っている。

2 研究の見通し

青谷上寺地遺跡出土人骨は、日本列島における弥生時代後期を代表するものとして保存状態も良く、DNA分析により青谷上寺地遺跡の弥生時代の人々の出自や系譜などの解明が期待される。
(研究成果は、鳥取県埋蔵文化財センターとの連名で発表)

3 これまでの経緯

- H30 1月 「日本列島人の進化に関する考古学的・遺伝学的・言語学的研究」が実施しているDNA分析に関して、国立歴史民俗博物館の藤尾慎一郎教授等から調査協力の依頼を受けて、共同研究としての試料の提供、分析を承諾。
- 2月 約40点の頭骨、上・下顎骨から試料を採取。
- 4月～ ミトコンドリアDNA分析がはじまる。多様なDNAを持つ人が存在した見通しを得る。現在詳細に解析中。

4 今後のスケジュール

- H30 10月19～21日 日本人類学会において中間の研究成果を発表。
→県内で中間の研究成果の報告会を開催予定
- H31 3月2日 県（埋蔵文化財センター）で研究成果を青谷人フォーラム（第3回とっとり弥生の王国シンポジウム）で発表（会場：とりぎん文化会館）。

5 今後予想される研究成果を活かした取り組み

- (1) 青谷人の復元を可能とする成果が得られることを期待して、「青谷人再現プロジェクト」を立ち上げ、研究成果の活用等について検討
- (2) DNA分析した人骨を含む青谷上寺地遺跡の優れた出土品を一挙に公開する展示
- (3) 現在計画の詳細化・基本設計を進めている史跡整備に平成31年度から着手予定
 - ・人骨が出土した地点は「倭国大乱ひろば」として整備し、魏志倭人伝の「倭国大乱」の実像を表現することを検討
 - ・DNA分析により得られた遺伝子情報に基づく青谷人の姿を再現し、公開する「青谷人コーナー」の設置を検討